伊勢市廃棄物減量等推進審議会（令和４年度第2回）審議結果等

* 日時：令和4年9月15日（木）18時30分から
* 場所：伊勢市役所本庁舎4-４会議室
* 出欠：
	+ 委員：別紙のとおり
	+ 事務局

環境生活部参事兼ごみ減量課長（大桑）、ごみ減量課副参事兼ごみ減量推進係長（林）、ごみ減量推進係主査（東條）、ごみ減量推進係主事（佐波）

* 審議結果等

事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。なお、単なる資料解釈に対する説明は省略してい

|  |
| --- |
| ●審議事項　ごみ処理基本計画改定『素案』について①ごみ処理基本計画改定（素案）のポイントについて【資料1-1】・目標値について【資料1-2-1】【資料1-2-2】【資料1-2-3】・施策について【資料1-3】・今後のスケジュールについて【資料1-4】 |
| （委員1） | 新計画で、人口予測が上がって可燃ごみは減っている。人口が増えれば可燃ごみも増えると思うが、資源化によって減らす見込みがあるため減っているということで、市民がごみを減らす努力を数値化したわけではないのか？ |
| （事務局3） | 資源化によって燃えるごみを減らすことを前提としている。 |
| （委員2） | 資源化量が頭打ちで進まないことについて、事務局はどのように分析して数字を出しているのか教えてほしい。 |
| （事務局3） | 世の中がリデュース（発生抑制）に進んでいる中で、国の計画では資源化率を上げるという目標がある。民間含めて大規模な資源化施設があれば、一気に資源化率が上がるが、それがないと大きな改善は難しい。現状の施策では、燃えるごみの中に含まれる資源物を適正分別することで資源化率を上げていくしかない。 |
| （委員2） | 当局の苦しい説明で状況は理解できた。別の話になるが、（リサイクルプラザで）EM菌を使った生ごみのたい肥化講座に際し、ごみ減量推進を目的に開く講座であるにも関わらず、しかもごみ減量化に積極的に取り組む市民に対して、3回か4回以上になると材料代を請求された。これは、ごみ減量推進を進める施策と反しているのではないか？実際に費用負担のために講座を辞める人も多かったと記憶している。生ごみ減量を進めていくのであれば、この辺りも検証してほしい。 |
| （委員3） | 学校給食の牛乳パックは、本来は洗面所で子どもが洗ってリサイクルというシステムにはなっているが、アレルギーの子どもがいれば飛沫があるので、その学年はリサイクルには回さずに燃えるごみに出している。企業や学校等で燃えるごみの中の紙類を除去したい場合、例外的な対応はあるのか？ |
| （事務局2） | コロナの関係で学校によりリサイクルの対応がバラバラだったので、資源化について教育委員会と協議したが安全優先のため進んでいない。タイミングをみて話を進めていく。また、事業系ごみ減量の啓発も進めていかなくてはいけないと考えている。 |
| （委員4） | 高齢化により戸別回収が増えると思う。今は行政が一部対応しているが、必要とする人が多い。紙おむつも増えているので、重点的に考えてもらいたい。 |
| （事務局2） | 収集は民間業者へのシフトが進んでいるが、有料収集や要介護者対象のふれあい収集などの制度もあり流れに沿っていく必要がある。また、自治会未加入者の問題も課題である。紙おむつの資源化については運搬コストがかかり、事業所の協力が必要なので、経費等含めて研究していく。 |
| （委員4） | 「これからこれから」、というのでは間に合わないのでは。自治会問題は以前は助け合いしていたが、現在はコロナやプライバシーの関係で絆が壊れて人にお願いしにくい。有料化も一つだが年金暮らしでは厳しい。有料化したらごみが減るという単純な考えは、やめたほうがよいのでは。考えをもって行政に取り組んでほしい。 |
| （委員2） | 基本方針3の中で「人事育成に協力」ではなく、「人材育成に務める」と表記して、市の姿勢を出したほうが良いのでは。 |
| （委員5） | 旧4市町の収集体制は統合するのか？紙おむつのリサイクルは平成10年代から話はあるが、大手企業ならともかく、ベンチャー企業は処理計画がずさんなことが多い。基本的にはし尿処理なので、水の処理問題がある。紙おむつのリサイクルはテーマとしては非常に良いが、生産性が悪いので有料となることが多く、重いので収集コストがかかる。 |
| （事務局1） | コストの面もあり、様々な状況を見計らって慎重に取り組む必要がある。高齢化が進んで紙おむつは増えるので、何らかの対策は取れる形にしていきたい。 |
| ②プラスチック製品回収について【資料2-1】 |
| （委員6） | 先行実施地区はR5年度からか？また、先行実施の地区はどのように決めるのか？ |
| （事務局2） | 総連合自治会と協議をしながら決めていく。法が施行されてから、全国的にも回収はまだ実績が少ない。プラスチック製品はいろいろあるが、どれくらいの量が出るか検証を踏まえて、多数の地区ではなく段階的に実施したい。 |
| （委員6） | プラスチック製容器包装は多い。プラスチック製品まで入れるとなると、週一回の収集では少ないのではないか？先行実施は量が少ない地区など様々な地区で早く把握するのが重要。 |
| （事務局2） | 実施地区への周知や説明を、詳細かつ丁寧に進めていきたい。 |
| （委員6） | 大きさを50ｃｍにするのは、決まっているのか？粗大ごみの基準が60ｃｍなので、わかりにくいのでは？ |
| （事務局2） | 50ｃｍは国からの指針であるが、衣装ケースなども裁断するのか等の課題もあり、様々なハードルがあるので整理をしていきたい。 |
| （委員3） | 丁寧な説明というのは、地域の世帯から代表が出て説明会をするということか？ |
| （事務局2） | コロナ禍なので、人を集めたくないという地区もあるかもしれないので、自治会と調整しながらチラシやパンフレット、回覧等を活用して周知していく。 |
| （委員3） | 旧小俣町はプラスチック製容器包装が開始された当時、各世帯が代表を出して説明を聞くように言われ、リサイクルの意識は高い。市民への説明は最初が大事なので、きっちりと市民に周知する必要がある。 |
| ●その他　○『「生ごみの水切りアイデア」募集』の選考について　〇「2022すぐ食べるならつれてって！キャンペーン」について |
| （事務局3） | 水切りアイデアは当初、ナイスアイデア賞を選考していただく予定だったが、応募件数が10点で一生懸命取り組みしていただいているので全員にアイデア賞を渡す形でよいか？ |
|  | （全会員異議なし） |
| （事務局3） | 今年3回目のキャンペーンを行うので、周知をしていただきたい。 |
| （事務局2） | 生ごみの水切りは市長もかねがね話している。水切りのひとしぼりをすることで減量化につながるので、重点的にやらなくてはいけないがなかなか進まない。委員の皆様にもご協力いただきたい。以上をもって審議会を終了させていただく。 |